

# 新治小学校だより



ひびく心 はずむ体 見つめる目  
～新治のよさを持続して生かしながら、  
よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和4年度  
2月号  
令和5年1月31日



## 学習の「材」としてのビオトープ

副校長 青木 直美

新治小学校には、ビオトープがあります。ビオトープとは、バイオ(bio:生命)とトポス (topos:場所) の合成語で生物の生息空間を意味するといわれます。本校のビオトープは、数年前に整備をし直しており、多様な生物が生息しています。今は冬で水草も枯れていますが、多くの水草が繁殖し、多様な生き物の生活の場となっています。環境委員会の児童が外来種のウシガエルや藻の駆除に取り組んだり、わくわくの時間でビオトープの環境維持に取り組んだり、低学年は生活科で生き物を探して捕まえたり、それを教室に持ち帰って飼ってみたり。高学年では理科で顕微鏡を使って微生物の観察もしています。学校生活のいろいろな場面で活用されています。

私もビオトープの管理に携わっているのですが、一昨年この学校に来たときは、ビオトープのある学校が初めてだったこともあり、分からないことだらけでした。整備に関わってくださった里山研究所の方が視察にいらしたときも現状の説明もうまくできず、逆にいろいろ質問してばかりだったのを覚えています。そのときにいわれたのは、藻の繁殖が激しく除去が必要なこと。水草の繁殖が弱いことでした。藻は何度除去しても増えて水面を覆ってしまいます。次第に水位も安定せず、すぐに下がってきてしまうようになりました。すぐに水位が下がってしまうのは自然蒸発なのか。どこかから水が漏れているのか、循環ポンプのあっちを閉じたりこっちを開いたり、両方閉じたり1/3だけ開いたり。まさに試行錯誤です。今のところうまくいかないことの方が多いのですが、一昨年からのいろいろやっていくうちに、循環ポンプの仕組みがわかってきたり、思いがけない生物を見かけて驚いたり、ちょっと楽しくなってきました。餌が減る冬場は、カワセミがやってくることも多くなっています。

せっかくある学習環境なので、子どもたちにもたくさん関わってほしいですし、みんなで大切にこの環境を育てていければと思います。ビオトープを通していろいろなことを体験し、自分で考えたり、話し合ったり、調べたりして得た知識などを活用し、さらに物事を探求していくそんなことができるといいなと思います。



### 個別支援級改造工事について

1月末より3月末までの期間、普通教室棟体育館横の多目的ホールに個別支援級改造その他工事が始まります。学習活動にはできるだけ支障のないようにしていきますが、工事業者の出入りや、工事に伴う音の発生など避けることのできないものもいくつかあるかと思えます。次年度の個別支援級の学習環境の改善のため、ご理解、ご協力くださいますようお願いいたします。